

火災による煙とすすの始末

ヘルス・ファクトシート

2025年1月1日

環境衛生



煙やすすは部屋の中に入り込み、ペンキ、カーペット、椅子張り、カーテン、衣類、その他の持ち物にまで影響を及ぼします。火災現場の換気や瓦礫の撤去は、火災後の後始末の第一歩として効果的です。改装する前には、徹底的な清掃と、付着物や臭いの中和が必要になります。

注: お子さんがある場合、火災後の片付けをする間は親戚や友人に預けましょう。火災現場は子どもにとって危険な場所であり、被害を目の当たりにすると動揺し、怖い夢を見るなど長期的な影響を及ぼす可能性があります。

はじめに – 一般的な洗浄方法

火災の種類によって、洗浄方法が異なってきます。高濃度酸素による火災は、急速に燃え広がるため破壊力が大きく、消火が難しいという特徴があります。一般的に、高濃度酸素による火災では、乾燥したホコリのようなすすが発生します。洗浄方法は以下の通りです。

清掃に関する推奨事項とガイドライン:

- 皮膚への接触を避けるため、家庭用食器洗い用手袋のような手袋を着用し、長袖のシャツとズボンを着用する。灰が皮膚に付着した場合は、できるだけすぐに洗い流してください。
- 灰やその他の浮遊微小粒子を吸い込まないように、防塵マスク（できればN95マスク）などの個人用保護具を着用する。
- 煤煙や臭いを除去するため、換気（窓を開けるなど）を行う。
- 臭気を減らすため、燃えカスを取り除く。
- 空気中の湿気（相対湿度）をコントロールするため、特に消火に水を使用した場所には除湿機を設置する。
- 中身の価値を素早く評価し、洗浄や除去が必要かどうかを判断する。
- 壁、家具、床からすすや煙を取り除くには、刺激の少ない石鹼や洗剤を使うか、1ガロンのぬるま湯に対し、大さじ4~6杯のリン酸三ナトリウムと1カップの家庭用洗剤または塩素系漂白剤を混ぜる。ゴム手袋を着用する。表面は必ず澄んだぬるま湯で洗い流し、十分に乾燥させること。
- 壁の表面を一度に小さな面積ずつ洗い、筋や凸凹の跡が残らないように床から上に向かって洗う。すぐにきれいな水で洗い流す。
- 天井は最後に洗浄する。
- カビの発生を抑えるために、濡れた面を、1ガロンの水に1カップの家庭用漂白剤を溶かした液ですべて拭き取る。第1に、漂白剤溶液を小さなエリアに使用し、変色がないことを確認してください。溶液で拭き、24時間乾燥させることで試すことができます。
- 壁も天井も完全に乾くまで塗り直さない。
- 洗える壁紙は、ペンキが塗られた壁と同じようにきれいにすることができますが、壁紙を濡らしてはいけません。剥がれた部分や端は、市販の糊で貼り直してください。
- サビやシミを防ぐため、すべての金属仕上げを食用油で拭く。
- 熱で変色したステンレスをきれいにするには、柔らかい布に酢を含ませ、ステンレスの表面をこする。筋が見えなくなるまで表面をこする。
- 空気中の水分で活性化し、永久的なシミの原因となる可能性のある酸性のすすを除去するため、

PVC（樹脂サッシ）窓や白い塗装面などのプラスチックや表面を中性アルカリ洗剤で洗浄する。

- 鍋、フライパン、食器などは石鹼水で洗い、すすいでから磨く。
- 財布や靴は新聞紙を詰めて形を保つ。スーツケースは開けたままにしておく。
- 香料の入った製品は臭いを隠すので、掃除には使わないこと。
- 表面のシミを除去できない場合は、シミを消し、にじみを防ぐ特殊な塗料の使用を検討する。一般的に、これらの塗料はラッカー系か油性です。

損害の種類に応じた洗浄方法

高酸素濃度が起こした火災による損害: 初期の付着物を除去するための乾いたケミカルスポンジを使用し、中性洗剤を使用する。

キッチン火災による損害の場合: 残留物は目に見えにくいため、徹底的な洗浄が必要。通常、キッチンキャビネットや引き出しの中身は、手の届かない部分を洗浄できるように取り外す必要があることを覚えておいてください。

重度の残留物の洗浄: この場合、専門家による支援や機械的な洗浄が必要になることがあります。洗浄方法の例に以下があげられます:

- 低圧サンドブラスト
- 重曹ブラスト
- ドライアイスブラスト
- 蒸気洗浄機
- 薬品の塗布と攪拌（かくはん）
- 非破壊的なゴム製ブラスト

素材別の洗浄方法

カーテンや布地: カーテンや布地:すすは、油の一種であるため、強力な掃除機で可能な限り取り除くようにしましょう。すすのついた布地には、直立型の掃除機や、ブラシやブラシローラーのついた掃除機やアタッチメントは、すすを他のものに巻き込んでしまい、掃除が難しくなるので使わないでください。掃除機のノズルを表面より少し上に持っていき、掃除機が表面から煤を浮き上がらせるようにします。掃除が終わったら、すぐにきれいなシートで覆い、他の掃除の際に再び汚れないようにしましょう。カーテンなど、ドライクリーニングが必要なものは洗濯機で洗わないでください。

カーペット: レンタル店やスーパーマーケットで回転式たわしや抽出機を使うか、プロのカーペットクリーニング業者に依頼しましょう。

衣類や寝具: 煙の臭いは、未燃焼の化学物質がすべて取り除かれるまで、非常に長い間布地に残ることがあります。その多くは目には見えません。洗剤で一晩浸し、普通に洗濯してください。漂白できるものについては、洗濯の際に通常通り漂白剤を入れてください。

硬質素材のもの - 多孔質（塗装面、壁板、石膏、壁紙、露出した木材）:

すすが多孔質の表面に付着している場合は、ドライケミカルスポンジを使用し、可能な限りすすを除去することをお勧めします。こうすることで、ススが表面の奥深くまで入り込み、永久的なシミとして残ってしまうのを防ぐことができます。

硬質素材のもの - 多孔性が低い（タイル、カウンタートップ、密閉された木材、ガラス、金属、電化製品、ビニールの壁紙）:

スポンジ、タオル、モップに家庭用洗剤を含ませて使用してください。

復旧作業中の安全に関するヒント

- 火災の近くにあった電化製品は使用しないこと
- 天井が濡れている場合は、天井設備を使用しないこと。
- 最初の点検では、さすが他のものに付着するのを防ぐため、何も触らないこと。
- 必要であれば、専門業者に復旧作業を依頼する。

詳細は、地域保護支部（**Community Protection Branch**）(626)430-9820までお電話にてお問い合わせください。